

試験掘削結果の反映状況について

表 試験掘削結果の反映状況について

	掘削年次	掘削箇所	概要・ねらい	結果	フィードバック
①	H 1 4	第1調節池湿地再生実験地1 第3調節池湿地再生実験地3	・浮葉植物や沈水植物の生息環境の形成 水深1m・水際勾配1／60・浅場が形成されている	・水際に浅場があり緩やかな方が浮葉植物や沈水植物が生育しやすい	⑧に採用
②	H 2 0 . 4 } H 2 0 . 1 2	湿性草地再生実験地	・湿地植生の再生手法の把握	・掘削により良好な湿地環境が再生できる	⑧に採用
			・外来種の抑制効果の把握	・冠水による抑制効果がある	④に採用
			・地下水の低下・周辺植生への影響の把握	・掘削地周辺では地下水位の低下がみられ、セイタカアワダチソウが侵入・拡大する	今後の掘削に採用
			・地上種子活用による有効性の確認	・表土・地上種子の利用により、湿性植物の再生には有効	⑧に採用
③	H 2 2 . 2 } H 2 3 . 1	環境学習フィールド①	・水域～湿潤環境における湿性植物の再生状況の把握	・平均地下水面程度のところに湿性植物が生育しやすい	⑥⑧に採用
				・河岸勾配1/10よりも1/5の方がセイタカアワダチソウの侵入は少ない	⑤⑧に採用
④	H 2 2 . 1 2 } H 2 3 . 1 0	水位変動型実験地	・河川洪水の攪乱による影響の把握	・春～秋の冠水日数が75日以上の箇所では植物の侵入が少なく、裸地環境が維持された	今後の掘削に採用
			・掘削初期のヤナギ類等や外来種(セイタカアワダチソウ)の抑制の可能性の把握	・ヤナギ類は冠水頻度が高い箇所では侵入しにくい、セイタカアワダチソウは冠水頻度が高～中程度の箇所では侵入できない	今後の掘削に採用
⑤	H 2 3 . 1 2 } H 2 4 . 5	環境学習フィールド②	・地下水や雨水を水源とし水位の安定した池沼を形成し、湿性植物の再生状況の把握	・H 2 4 . 6よりモニタリング調査開始	③の結果を採用
⑥	H 2 4 . 6 } H 2 5 . 3	湿潤環境形成実験地	・平均地下水位に沿った掘削を行うことにより小さな池沼が小さな池沼が点在する湿潤環境が再生されるかを確認する ・小さくて浅い池沼をつくり、小動物の生息状況を把握する	・H 2 5 . 4よりモニタリング調査開始	②③の結果を採用
⑦	H 2 4 . 6 } H 2 5 . 3	水位安定型実験地	・貧栄養で水位変動の少ない池をつくり、どのような水生生物が育成するかを把握する	・H 2 5 . 4よりモニタリング調査開始	今後の掘削に採用
⑧	H 2 5 . 6 } H 2 6 . 3	H 2 5 掘削箇所	・試験的に表土撒き出しを行い、ヤナギの侵入を抑制できるか把握する	・H 2 6 . 4よりモニタリング調査開始	①②③の結果を採用

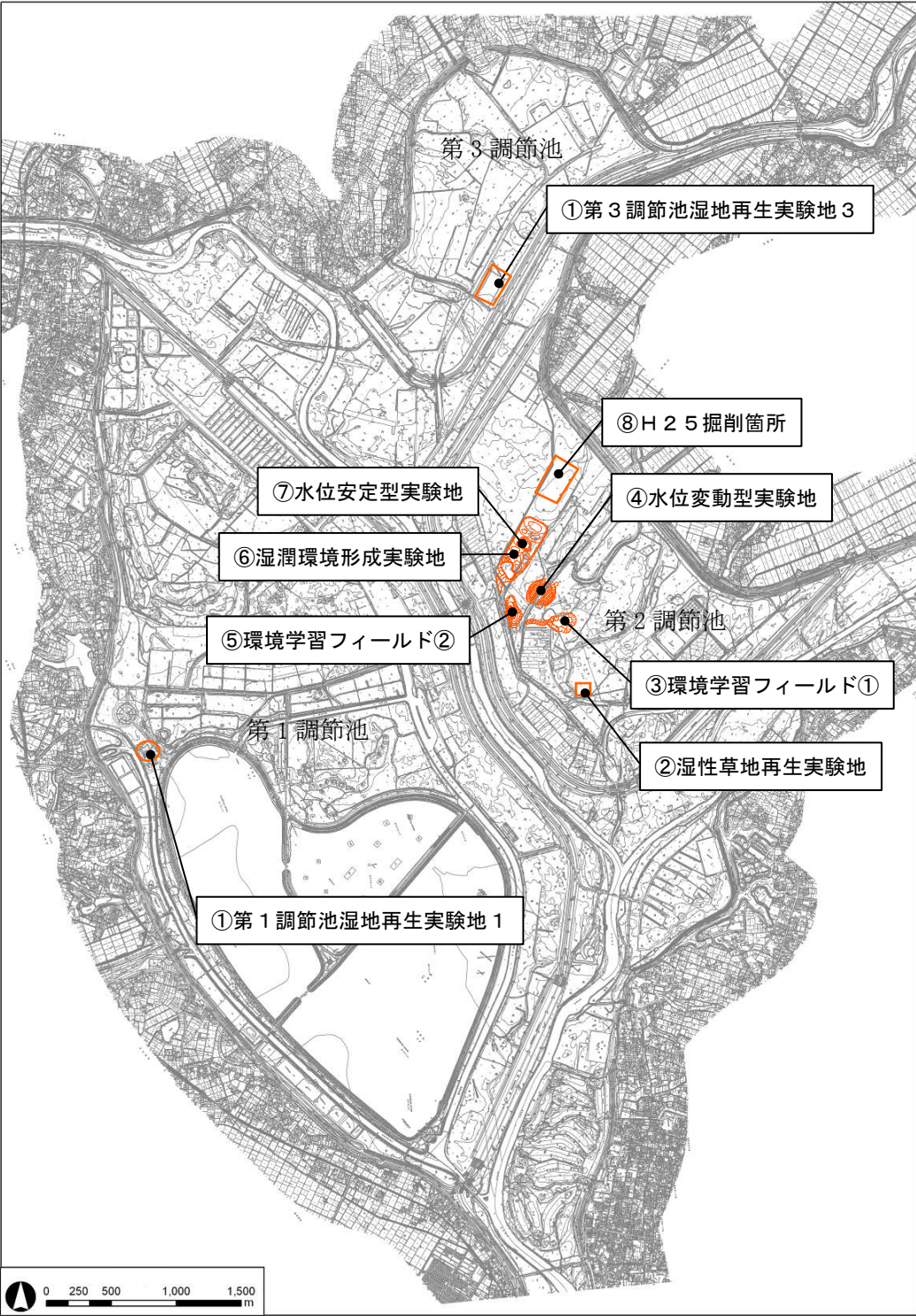


図 実験地の位置図